

# 森合資会社

## 森合資会社(もりごうしがいいしゃ)

建築年: 店舗・明治初期  
事務所、石蔵・大正3年(1914)  
(国登録有形文化財)

森家は、明治期から大正期にかけて金融業と土地経営により桐生最大の富豪になりました。政治経済のみならず、教育、文化面においても多大な貢献をしています。明治37年(1904)に屋号を森商店から森合資会社へと改め、現在も事務所として活用されています。

事務所は、大正期に建築された当時、貴重であった白磁タイル張りの和洋折衷様式が印象的です。隣接する石蔵は、かつては森家の穀蔵として利用されていました。昭和36年(1961)に農機具店、平成14年(2002)から現在まで「天然染色研究所」として利用されています。



かっこいい建物だね。  
和風のような、  
洋風のような



そうね。建物は木造だけど、外壁は白磁タイル張り。玄関上だけ切妻にして妻面には銅版と左官でレリーフを施しているのね。

当時の洋風建築の要素取り入れつつ、玄関庇や窓の小庇は格式の高い和風にするなど和様混在の形式だわ。



敷地内通路を挟んだ場所の建物「天然染色研究所」は、事務所と同じく大正3年(1914)に建てられた旧穀蔵で石造(溶結凝灰岩)だけど、仕上げを白漆喰にして土蔵風の外観にしたのね。

